

令和8年度京都府立医科大学  
大学院保健看護学研究科博士前期課程入学試験（A日程）

## 共通科目

### 【総合問題】

#### 注意事項

- 1 問題・解答用紙は、係員の指示があるまで開かないでください。
- 2 受験番号・氏名を問題・解答用紙に記入してください。
- 3 解答は、問題・解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 答案は、封筒に入れてください。

## 【共通科目：総合問題】

アドバンス・ケア・プランニング（advance care planning：ACP）について書かれた下記の文章を読み、ACPに関わる医療者のセルフケアについて、あなたの考えを述べなさい。

1000字程度で記述すること。

ACPは、将来（に起きるかもしれない意思決定能力の低下）に備え、どのような医療やケアを受けたいかについて、患者本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスである。「プラン（plan）」ではなく「プランニング（planning）」と「～ing（現在進行形）」が使われているところに、「一度決めたらそれで終わり」ではなく、気持ちや考えは変わりうるものであることを認め、繰り返し話し合うことの重要性が表れる。患者・家族等がそうした大切な話ができるよう、そこに関わる支援者には、その時々現状理解と相互理解のすり合わせ、また潤滑なコミュニケーションのための信頼関係構築など、目配り・心配りが求められる。

命を脅かす病の罹患、病状の進行、身体症状のつらさや心のつらさ、さまざまな喪失悲嘆とそこに伴う実存的な苦悩など、患者や家族は闘病の道のりでさまざまな山や谷と向き合うことを迫られる。

「今このタイミングで ACP の話題を出しても大丈夫だろうか」と、ACP の話題にふれることが及ぼす患者・家族への負荷を懸念するなかでタイミングを逸し、病状の急激な変化のなかで「今すぐに決めなければならない諸々」に慌てるという場面も少なくない。特に急性期対応の医療機関では、心身ともにつらさが押し寄せるなかで難しい意思決定を迫られるという状況もしばしばみられる。時間が限られたなかで、選択を求めなければならないという状況は、そこに関わるスタッフにとっても非常にストレスフルであろう。（中略）

臨床現場では「いのち」が相手であり、「ひと」が相手であるからこそ、「そもそも明確な答えなど見つからない事態」に耐えることもたびたび求められる。また一生懸命の頑張りが必ずしも結果を伴わないこともある。悩んだり迷ったり、無力感や不全感にさらされたりしながら、現場で出会う応用問題の1つひとつに向き合うことを通して鍛えられ、私たちは気づきを得、学び成長させてもらうのではないかと思う。

ストレスや困難な事態にさらされても、柔らかくしなる若竹のように回復していく力（レジリエンス）を1人ひとりが自分の内に育み、所属する組織の内に育むことが、日々数々の応用問題と向き合い、それを糧としようとする姿勢につながるのではないかと思う。